

2 野 菜

項 目	作 業 内 容																										
<p>(1) 冬春野菜の防寒管理</p> <p>(2) 冬春露地野菜の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <p>冬春野菜の防寒対策 冬春露地野菜の管理 施設野菜の温度管理</p> <p>今年は、冬春野菜全般を通して秋期に雨が多く、気温も高めで推移したため、害虫の発生消長が変動し、生育は全体的にやや早くなっていると見ている。高松地方气象台発表による1か月予報は、平均気温が高い確率60%、降水量が多い確率50%と出ているが、12月からの急激な気温の低下も考え、不織布等で被覆し防寒に努める。なお、被覆資材を利用する場合は、温度や湿度管理に留意し、徒長や病害の発生を防ぐ。</p> <p>表1 主なベタがけ資材の特性</p> <table border="1" data-bbox="496 898 1362 1193"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>品名</th> <th>用途</th> <th>遮光率</th> <th>耐用年数</th> <th>特徴・留意点等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">長繊維不織布</td> <td>パオパオ</td> <td rowspan="2">保温・防霜・防虫</td> <td>85～90%</td> <td rowspan="2">1～2年</td> <td rowspan="2">安価。通気性が低い。結露軟弱化に注意</td> </tr> <tr> <td>パスライト</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>割繊維不織布</td> <td>タフベル</td> <td>保温・防霜・除湿</td> <td>85～90%</td> <td>5～7年</td> <td>やや高価。耐候性が高い。</td> </tr> <tr> <td>寒冷紗</td> <td>-</td> <td>保温・防霜・防風</td> <td>10～85%</td> <td>7～10年</td> <td>通気性が高い。いろいろな遮光率の資材あり。</td> </tr> </tbody> </table> <p>今年秋は雨が多かったため、圃場が湿っている場合は、外周溝をさらうなど、圃場内に水がたまらないよう排水対策を行っておく。</p> <p>ア キャベツ</p> <p>年内に結球を完了させる。生育の遅れているものは、早いうちに10a当たり窒素成分で3～4kgの追肥や灌水をして生育を促す。なお、晴天が続く土壤が乾燥すると、品質や収量の低下を招くので、10日以上晴天が続くようであれば、土壤の乾き具合や生育状況を見て灌水する。</p> <p>イ レタス</p> <p>生育適温は15～20で、5以下ではほとんど生育しない。平均気温が10以下になればトンネル被覆を行う。被覆が早すぎると高温のため、変形球になりやすく、遅いと球の肥大が悪くなる。被覆後、トンネル内が高温になると変形球や充実度の悪い球となるので、25以上にならないよう温度管理に注意する。</p> <p>ウ ブロッコリー</p>	種類	品名	用途	遮光率	耐用年数	特徴・留意点等	長繊維不織布	パオパオ	保温・防霜・防虫	85～90%	1～2年	安価。通気性が低い。結露軟弱化に注意	パスライト	90%	割繊維不織布	タフベル	保温・防霜・除湿	85～90%	5～7年	やや高価。耐候性が高い。	寒冷紗	-	保温・防霜・防風	10～85%	7～10年	通気性が高い。いろいろな遮光率の資材あり。
種類	品名	用途	遮光率	耐用年数	特徴・留意点等																						
長繊維不織布	パオパオ	保温・防霜・防虫	85～90%	1～2年	安価。通気性が低い。結露軟弱化に注意																						
	パスライト		90%																								
割繊維不織布	タフベル	保温・防霜・除湿	85～90%	5～7年	やや高価。耐候性が高い。																						
寒冷紗	-	保温・防霜・防風	10～85%	7～10年	通気性が高い。いろいろな遮光率の資材あり。																						

項 目	作 業 内 容
(3) 施設野菜の 温度管理	<p>頂花蕾どり専用種と頂花蕾・側花蕾どり兼用種があり、側花蕾も収穫する栽培では、追肥と灌水が重要となる。頂花蕾を収穫した後、10 a 当たり窒素成分で 4 ~ 5 kg の追肥を施用し、土壌が乾燥している時は十分灌水する。灌水は暖かい日の午前中に行う。</p> <p>エ タマネギ</p> <p>浅根性であるため、年内に十分根を張らせて、健全な状態で越冬させる。定植時期が遅れたり、定植後の乾燥等により生育が遅れている場合は、十分灌水して生育を促す。</p> <p>オ ソラマメ</p> <p>定植後、1 か月余り経過したソラマメは、主枝が大きく生長し、分枝の発生が見られるようになる。分枝の発生や生長を促すため、主枝の本葉 3 ~ 4 枚の時に 5 ~ 6 節で摘心するとともに、株元に土入れを行い、株のぐらつきやマルチのバツキをなくし、株を安定させる。</p>
	<p>越冬型の施設果菜類では、今後本格的な加温の時期となる。石油燃料が高い状態が続いているので、ハウスの隙間や破損部の補修を行い、保温性を高めるとともに、品目の特性に応じた温度管理により、収量・品質の向上に努める。</p> <p>ア 変温管理</p> <p>トマト、キュウリ等の果菜類では、夕方から前夜半は光合成産物の転流を促進するため、やや高めの温度で管理し、後夜半は呼吸による消耗を抑えるため、低めの温度とする変温管理が実用化</p>



写真1 ソラマメの栽培



写真2 キュウリの促成栽培

項 目	作 業 内 容																																																
	<p>されており、燃料の節減にも一定の効果が見られる。</p> <p>なお、曇りや雨の日は日射量が少なく、光合成産物の量も少ないため、前夜半の温度を晴天日よりやや低めに管理する。</p> <p>また、早朝加温は、日の出とともに光合成がスムーズに行える環境を整えるとともに、ハウス内の湿度を下げ、トマトの裂果軽減にも有効であるが、早朝は最も温度の低い時間帯であるため、設定温度を高くすると燃料の消費量も多くなるので注意する。</p> <p>イ 品目に応じた温度管理の徹底</p> <p>燃料費の節減を優先するあまり、作物の生育適温以下に設定温度を下げると、草勢の低下や収穫の遅延等によって収量・品質が大きく低下し、逆に経営収支が悪化した事例が多く報告されている。このため、栽培品目に応じた適切な温度管理を厳守し、収量、品質を落とすことのないよう注意する。</p> <p>トマト ()</p> <table border="1" data-bbox="512 1144 1347 1261"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (~24時)</th> <th>後夜半 (0~6時)</th> <th>明け方 (6時~)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>温度</td> <td>25~27</td> <td>23~25</td> <td>10~12</td> <td>8~10</td> <td>10~12</td> </tr> </tbody> </table> <p>キュウリ ()</p> <table border="1" data-bbox="512 1346 1347 1503"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (~24時)</th> <th>後夜半 (0~6時)</th> <th>明け方 (6時~)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴天温度</td> <td>25~28</td> <td>23~25</td> <td>12~13</td> <td>11~12</td> <td>16~18</td> </tr> <tr> <td>曇天温度</td> <td>20</td> <td>16~17</td> <td>12</td> <td>11</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>* 但し、着花節位が上昇している場合は、早期加温を中止する。</p> <p>イチゴ ()</p> <table border="1" data-bbox="512 1630 1347 1816"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (~24時)</th> <th>後夜半 (0~6時)</th> <th>明け方 (6時~)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土耕温度</td> <td>25</td> <td>20~25</td> <td>8</td> <td>6~8</td> <td>10~12</td> </tr> <tr> <td>高設温度</td> <td>25 (28)</td> <td>20~23 (28)</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>10~12</td> </tr> </tbody> </table> <p>()は炭酸ガス施用時</p> <p>図1 品目別変温管理の実施例 品種や草勢等により調整する</p>	時間	午前	午後	前夜半 (~24時)	後夜半 (0~6時)	明け方 (6時~)	温度	25~27	23~25	10~12	8~10	10~12	時間	午前	午後	前夜半 (~24時)	後夜半 (0~6時)	明け方 (6時~)	晴天温度	25~28	23~25	12~13	11~12	16~18	曇天温度	20	16~17	12	11		時間	午前	午後	前夜半 (~24時)	後夜半 (0~6時)	明け方 (6時~)	土耕温度	25	20~25	8	6~8	10~12	高設温度	25 (28)	20~23 (28)	8	8	10~12
時間	午前	午後	前夜半 (~24時)	後夜半 (0~6時)	明け方 (6時~)																																												
温度	25~27	23~25	10~12	8~10	10~12																																												
時間	午前	午後	前夜半 (~24時)	後夜半 (0~6時)	明け方 (6時~)																																												
晴天温度	25~28	23~25	12~13	11~12	16~18																																												
曇天温度	20	16~17	12	11																																													
時間	午前	午後	前夜半 (~24時)	後夜半 (0~6時)	明け方 (6時~)																																												
土耕温度	25	20~25	8	6~8	10~12																																												
高設温度	25 (28)	20~23 (28)	8	8	10~12																																												

(作成 農林水産研究所)